

基本情報

施設名	アイン松本町保育園
法人名	中央出版株式会社
所在地	横浜市神奈川区松本町 3-27-8
電話番号	045 (314) 4152
評価年度	平成 27 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION
結果公表	平成 28 年 3 月

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成 27 年 11 月 24 日～ 平成 27 年 12 月 22 日	保育内容の見直しをし、評価票をもとに内容の共通理解をした上で、各自で自己評価をしました。
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成 28 年 2 月 2 日 平成 28 年 2 月 3 日	評価調査者 2 名が、2 日間を通し、園内の視察、保育内容、子どもの観察、園長のヒアリングおよび書類確認により総合的に評価を行いました。1 日目、職員インタビューを 3 名に実施し、お昼は 4、5 歳児と共に食事を行い、食育の観察と共に保育士とのかかわりを観察しました。また、散歩に同行し、延長保育での子どもの様子を見学しました。2 日目は利用者本人調査を実施しました。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成 27 年 12 月 11 日～ 平成 27 年 12 月 8 日	保護者の方に手渡しをしてお願いしました。
利用者本人調査	
(実施期間) 平成 28 年 2 月 3 日	異年齢活動中により、4 歳児、5 歳児の出席児全員 14 名に 20 分程度、部屋を設定して、質問 6 項目の面接を実施し、子ども一人一人の意見を聞き、インタビュー内容を通して、子どもの姿、園生活等を確認し、保育士とのかかわり等を確認しました。

第三者評価結果報告書

《総括》

対象事業所名	アイン松本町保育園
経営主体(法人等)	中央出版株式会社
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒221-0841 横浜市神奈川区松本町 3-27-8
設立年月日	平成 25 年 4 月 1 日
評価実施期間	平成 28 年 2 月 ～ 28 年 3 月
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

●アイン松本町保育園の立地・概要

アイン松本町保育園はJR横浜駅と東急東横線反町駅の間であり、横浜市営地下鉄ブルーライン三ツ沢下町駅から徒歩で5分程度、旧国道1号線から1本沿った松本町三番街商店街通りにあります。この辺りはもともと東海道の街道沿いの神奈川宿として栄えたところで、東海道五十三次の神奈川・台之景にも描かれ、坂本龍馬の妻おりょうが龍馬亡き後、住み込みで勤めていた料亭も現存しています。また、開港地に近いことから、米国総領事ハリス、伊藤博文、西郷隆盛、高杉晋作などが倒幕の計画を練った逸話も残る歴史が刻まれた地です。現在は横浜駅界限となり、旧道のこの辺りは住宅街として現在に至っています。

アイン松本町保育園は現在、定員79名の保育園で、在籍児童は年齢別に定員にプラスして86名を受け入れています。園舎は2階建てで屋上があり、現状、1階には事務棟、厨房、0歳児保育室、1歳児保育室、ホールが設けられ、2階には2歳児保育室～5歳児保育室となっており、屋上には園庭が設置されています。アイン保育園の「アイン」の意味は、1つ目は『ドイツ語の「1」: いちばんの子育てセンター、いちばん愛される園』、2つ目は『「愛+in」: 子どもたちに愛情をinする』、3つ目は『アインシュタインの「アイン」: 教育を実践して、未来を担う子どもたちの育成』の3つで構成されており、具現化を目指した保育を進め、園のロゴも「アイン」の意味を込めて示されています。アイン松本町保育園の雰囲気は温かく、子ども一人一人を大切に育てています。

●アイン松本町保育園の保育の方針

アイン松本町保育園は、開園時の事業理念である『知・徳・体』の「生きる力」を継続し、新しい事業理念として『遊びと学びは仲良し』を掲げ、保育の質の向上を根幹に、「遊びと学びは仲良しをモットーに」、「学ぶ楽しさをいっぱい感じてもらう保育」を展開しています。保育目標は、「好きな遊びをみつけてお友達と楽しくいっぱい遊べる子ども」、「いろいろなものに興味をもち、意欲的に挑戦する子ども」、「思いやりの心をもった優しい子ども」とし、『自由保育』・『モンテッソーリ教育』・『共育』をコンセプトとして保育を推進しています。特に、「モンテッソーリメソッド」は、イタリアの女医で教育家の

マリア・モンテッソーリが創始者であり、大人が教えるのではなく、子どもが自らの力で育って行こうとする「内面の成長」を生かす教育方法で、アイン保育園の保育の柱となっています。教育教材は、中央出版株式会社で製造販売されている、モンテッソーリメソッドの遊具（プルチノ）と、他社のモンテッソーリ教具も活用して保育にあたっています。

《優れている点》

1. モンテッソーリ教育の推進

アイン松本町保育園で展開しているモンテッソーリ教育の特徴は、「自由に個別活動をする」、「子どもの中の自主性を重んじる」、「異年齢保育で活動する」です。「自由に個別活動をする」では集団で同じことをするのではなく、自由に個別活動を行い、自分自身で活動を選び、自分のリズムで、納得のいくまで繰り返し活動しています。「子どもの中の自主性を重んじる」では、子どもの知的好奇心が自主的に表れるよう、「自由な環境」設定を重視して子どもに提供しています。「異年齢保育で活動する」では異年齢混合のクラスの中で、子どもたちがお互いから学び合う機会を大切にしています。アイン金沢文庫保育園では、異年齢保育を中心にしながら年齢保育も併せて取り組んでいます。モンテッソーリメソッドの教育を核とし、整備された環境の中で、子どもたちは達成感、満足感、自信、集中力を高め、生きる素地を身に付けています。

2. 本部機能の活用による職員の資質向上の取り組み

アイン松本町保育園を初めとして、中央出版株式会社保育事業本部（以下、法人本部）と系列全園が一貫して、職員の資質向上を最優先課題として保育士のレベルアップに取り組んでいます。法人本部では各保育士の年間目標を設定した目標管理を導入し、年2回、園長面談と、年1回法人本部面談を実施し、年度末には各保育士の達成状況、反省点を確認し、次の課題につなげて質の向上につなげています。さらに、研修・教育の充実を図り、夜間の小研修を年4回実施し、法人本部主催の1日間研修を年2回、日曜日に実施する他、内部研修の充実にも力を入れて研鑽を図り、保育士のステップアップに取り組んでいます。内部研修には非常勤職員も参加し、正規職員と同様に質の向上を目指しています。特に、モンテッソーリメソッドの教育を推進するために、保育士のボトムアップが重要と考え、これら研修の充実と実務上のOJT教育により、保育士は順調に成長しつつあります。

3. コンセプトである「共育」の推進

アイン保育園の運営において、「コンセプト」となっている『共育』の語源は、子ども、保護者、地域の方々と保育園を含む法人本部関係者が、互いに助け合い、勉強しながら「共に育っていく」という想いで創られた言葉です。また、子どもは年齢別クラスや異年齢保育を通して様々な子どもたちと共に育ち、保育士も保護者も子どもをサポートしながら共に成長して行きます。『共育』の保育は、年間指導計画の中に随所に取り入れ、実践しています。保護者へは、『共育』の考え方について入園のしおりに明示し、保護者懇談会（5月）で説明を行い、園だよりにも掲載して理解を促しています。園では、

朝（7:00～8:30）と夕（16:00以降）は合同保育を行い、大きな家庭、たくさんの兄弟として、上の子・下の子・真ん中の子どもが互いに支え合い、育み、『共育』が実践されています。

《更なる改善が求められる点》

1. 職員のモンテッソーリメソッド理解と展開による保育の質の向上

企業が統一した保育を展開するには、同じサービスを展開するために「核」となるポリシーが必要です。運営主体の中央出版株式会社では、「核」なるポリシーとして、モンテッソーリメソッドの保育の展開をアイン保育園全園で図っています。1つの方針を展開するには、そのメソッドを成功させるために、全職員がそのメソッドを十分使いこなしてこそ推進できると思われまます。アイン松本町保育園では、全職員が理解にばらつきがないよう、先ず、「モンテッソーリメソッド」のより深い理解に努め、園全体のベクトルを合わせることを望まれます。全職員が「アイン保育園」のモンテッソーリ教育の特徴・理解を深め、段階を踏みながら、保育の展開をしていかれることを期待いたしております。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

アイン松本町保育園	
評価年度	27 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人)の尊重 領域Ⅱ サービスの実施内容 領域Ⅲ 地域支援
機能
領域Ⅳ 開かれた運営 領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上 領域Ⅵ 経営管理

評価領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人)の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と 保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none">●アイン保育園の事業理念は基本方針に沿い、「遊びと学びは仲良し」であり、園目標は、「好きなあそびをみつけてお友達と楽しくいっぱいあそべる子ども」、「いろいろものに興味をもち、意欲的に挑戦する子ども」、「思いやりの心をもった優しい子ども」とし、利用者本人を尊重した内容になっています。理念・法人・保育目標は、事務室に掲示して、職員が常に目にできるようにし、確認・振り返りができるようにしています。また、モンテッソーリ教育（大人が教えるのではなく、子どもが自らの力で育って行こうとする「内面の成長」を生かす教育方法）を根幹に保育を推進する環境に努め、職場内研修を行っています。今回、第三者評価を機に、全職員に理念や基本方針を記載した資料を職員会議で渡し、説明を行い、再確認をしました。アイン松本町保育園では、家庭的な雰囲気作りを大切にし、保護者にも理解を促しています。●保育課程は、地域の実態、周囲の環境を考慮し、理念、方針と共に、モンテッソーリ教育をベースにし、子どもの育ちの最善の利益を第一に考えて作成しています。保育課程の作成では、前年度の年間指導計画の反省を園長がまとめ、次年度への展開を全職員で考えて組み入れています。保護者へは、入園のしおりに保育課程の骨子を盛り込み、入園説明会や懇談会でも説明を行っています。●保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画を作成し、月間指導計画を立てて保育を実践しています。保育のねらいは、4歳、5歳児には説明し、言語化できない子どもについては、かかわりの中で態度や表情などから気持ちを汲み取るようにし、

	<p>指導計画に反映すると共に、柔軟性を持ちながら計画を勧めるようにしています。職員は、昼ミーティングで報告・見直しを図り、参加できない職員に伝え、共有化に努めています。</p>
<p>I - 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●入園前に入園説明会と保護者と子どもの個人面談を行い、子どもの様子を観察し、面談結果は職員会議で報告し、会議および、伝達（申し送り）ノートで共通理解を図っています。面接時のチェックシート、児童表、健康台帳はファイルし、必要に応じて職員が閲覧できるようにし、日常の保育に生かしています。 ●新入園児の受け入れの際は、短縮保育（ならし保育）を行い、基本的に1週間を目安に実施し、保護者の事情や子どもの様子に応じて臨機応変に対応するようにしています。入園説明会時に必要性和柔軟に対応することを説明しています。0歳、1歳児では、保育士はゆるやかなグループ担当制とし、特に主担当保育者は定めていませんが、今後、育児担当制保育の指導に努め、切り替えていくよう検討中です。全体で子どもを見守っています。進級児は持ちあがりの担任が担当するようにし、在園児の気持にも配慮するようにしています。職員は、遊びの中でアイコンタクトを行うだけでも気持ちの疎通を図れるよう努めています。保護者への連絡は、0歳～2歳児では連絡ノートを活用し、保護者との連携を図るように、口頭でも伝えるように努めています。3歳～5歳児も連絡ノートを用意し、保護者と連携を図っています。 ●指導計画は、計画は柔軟性を持たせ、週案で具現化を図るようにし、毎月、ミーティングで月案の反省と見直しを行い、次月に反映しています。評価、改訂については、月1回、全体会議時に全職員で検討し、情報を共有しています。また、保護者の意向、要望を聞き、保護者参加の行事後のアンケートにより意見を抽出し、回答を行い、保護者の要望等は指導計画に反映しています。また、法人としてのアンケートも年2回行い、アンケートの結果は公表しています。
<p>I - 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設環境について、保育室は1日の内、定時に保育士が掃除を行い、清潔に留意し、共用部分はパート職員が実施しています。建物は立地的に採光が少し弱く、保育室に極力採光を取り入れるように工夫し、通風、換気については適宜、自然換気に配慮し、気になる臭いを取り除くよう努めています。また、温・湿度の調整・管理を行い、子どもが快適に過ごせるよう配慮しています。音楽や保育士の声については、特に屋上の園庭では

	<p>大きな音は控え、音楽は必要に応じて使用するようし、近隣への配慮と共に、子どもが落ち着いて遊べる環境作りをしています。</p> <p>●1階の調乳室の隣に沐浴設備を備え、体を清潔に保ち、沐浴槽は毎日清掃し、衛生に保っています。温水シャワーの設備は、1階、2階、屋上園庭に設置し、清潔に過ごせるように活用しています。各設備は毎日、清掃し、使用后その都度清掃を行い、清潔に保っています。</p> <p>●子どもの発達に応じた環境作りでは、低年齢児保育室では、パーテーション、衝立などを活用して少人数で遊べるスペースを設けています。食事と午睡の場所は区別して確保し、乳児保育室は食事をした後に掃除をし、午睡空間を清潔に配慮しています。幼児では、食事と午睡の場所をそれぞれ分けています。4歳、5歳児の保育室の仕切りを開けて、異年齢の子どもが触れ合う場として活用し、3歳児も含めて電車遊びごっこ、はないちもんめ等をして楽しく過ごしています。また、延長保育、土曜保育は異年齢で行い、ゆったりと過ごせるようにしています。</p>
<p>I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<p>●子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、3歳未満児については、個別指導計画を作成しています。配慮を必要とする子どもについては、月間指導計画の中に個別配慮の欄を設け、記録しています。個別の目標・指導計画は、月間、週間で変更および見直しを図り、子どもの発達状況に合わせて柔軟に行っています。</p> <p>●個別のトイレトレーニングや、離乳食などについては、保護者、関係機関から情報を得て、保護者と連携をとり、重要部分の説明と同意を得て、個別指導計画の作成・見直しを行っています。</p> <p>●子どもの記録は、児童票・健康台帳に記録してファイルし、職員間で共有を図り、子ども一人一人の発達に応じた対応をしています。記録は、鍵のかかる書庫に保管し、必要に応じて全職員が閲覧できるようにしています。子ども一人一人の成長発達記録は、進級時等に申し送り、伝達しています。また、保育所児童要録を作成し、入学先の小学校に提出しています。保育要録を送っています。</p>
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p>	<p>●個別のケースについて、配慮点やかかわり方などをケース会議で共有し、全職員で対応ができるように体制作りを努めています。情報の記録は、個人情報に留意して職員間で情報共有を</p>



図り、園全体で対応できるようにしています。

●障害児保育のための環境整備では、玄関の段差をなくし、オストメイト対応のトイレも設置して環境を整えています。関係機関との連携では、神奈川県役所の保健課、東部地域療育センター、西部児童相談所と必要に応じて相談・指導を受けられる体制を構築しています。

●虐待に関するマニュアルを整備し、全職員に周知し、職員は理解しています。虐待予防・早期発見については、毎日子どもの健康観察を行い、登園時には話しかけるようにし、状況を観察するように努めています。気にかかる子どもや保護者について配慮し、言葉掛けを行い、必要に応じて面談を行い、保護者の心に寄り添うようにしています。関係機関とは連携して相談ができる体制を構築しています。

●アレルギー疾患のある子どもの除去食対応では、かかりつけ医からの指示に従い、保護者と連携を密にして適切に対応しています。職員は、神奈川県が開催する食物アレルギー研修に参加しています。受講後は会議で報告し、勉強会を開催して疾患の情報や必要な知識を職員間で共有しています。また、エピペンの打ち方の研修も受けています。給食時は、名前、アレルギー源（小麦粉、卵、ゴマ、乳製品）を記入したラップ、専用トレイを使用し、栄養士、担任保育士が確認し、誤食がないよう徹底しています。

●文化が異なる子どもへの対応については、文化や生活習慣、考え方の違いを尊重し、モンテッソーリの文化教具を活用して文化教育に取り組み、地球儀、世界地図パズル、国旗の積み木等でその国の場所等を知らせ、諸外国の様子や文化の違いに興味を持てるようにしています。外国籍の子どもが母国に帰国した時は、その国の生活の様子を話してくれるなど、文化や生活習慣の違いを他の子どもたちに伝える機会を設けています。外国籍に係る保護者へは、英語対応もしくは、通訳を活用しています。

I - 6 苦情解決体制



●保護者からの苦情などに関して、園のしおりに記載し、第三者委員を明示し、苦情解決のポスターを玄関ホールに掲示しています。また、適正化委員会等の他機関の苦情解決窓口も紹介しています。保護者から要望や苦情が言いやすいよう、玄関に意見箱を設置し、行事後には保護者アンケートを行い、年2回、法人本部による全体アンケートを実施しています。懇談会では、法人保育事業本部の担当職員が出席し、利用者の意見や要

望を聞く機会を設けています。意見を表明するのが困難な保護者には、園長、主任は日頃から保護者と信頼関係を深めるようコミュニケーションに努め、相談や要望が言いやすい環境作りに努め、声掛けをするようにしています。子どもに対しては、日常の様子を把握し、態度や表情から意向を汲み取るようにしています。

●苦情解決マニュアルを備え、マニュアルは職員に周知しています。苦情解決にあたり、法人本部と連携し、必要に応じて外部の機関（神奈川区役所こども家庭支援課、横浜市福祉調整委員会、西部児童相談所、適正化委員会）とも連携を図っています。また、苦情解決第三者委員（地域民生委員、他園主任保育士・保育士）との懇談会を開催し、情報交換を実施しています。要望や苦情を受ける体制では、会議などで苦情の解決策を周知すると共に、苦情、要望があった場合は園長に報告して対策を図る体制を整えています。過去にあった苦情・トラブルや要望に関しては、データを蓄積および整理し、問題解決と再発防止に活用しています。

評価領域 II サービスの実施内容

評価分類

評価の理由(コメント)

II-1 保育内容 [遊び]



●子どもが自主的に活動できるよう、玩具、教材等は子どもが自由に取って遊べるよう設定し、自分で取り出して片づけられるようにし、年齢や発達に応じた遊びの環境を整えています。子どもがそれぞれの遊びに集中できる環境として、棚、パーテーション、つい立を活用し、子ども一人一人が落ち着いて好きなことをして遊び込めるようにし、自由時間も十分に確保しています。園のモンテッソーリの教材に「機織り機」があり、子どもたちは楽しく遊んでいます。

●一斉活動が偏らないよう、子どもの主体性を尊重し、一人一人が興味・関心を持って遊べるように保育士が援助し、玩具、教具等を用意して、子どもの発想から遊びが展開できるよう環境を整えています。例えば、12月の発表会の劇では、グリム童話の「金のガチョウ」を取り入れ、子どもたちで台詞、ストーリーを考え、なりたい役、劇に使用するものも子どもが提案出して取り組みました。一斉活動は、行事に向けた取り組みの一環と捉え、ルールのある遊びを取り入れ、ルールを守ることの

大切さや、ルールを守って友だちたちと遊ぶ楽しさを知るように伝えています。子どもたちは、リズム遊び、椅子取りゲーム、リレーなどを園庭で楽しく遊んでいます。

●動植物の飼育や栽培の取り組みでは、屋上園庭でプランターにてピーマン、枝豆、とうもろこし、綿花を栽培し、飼育では、どじょう、夏は保護者からいただいたカブト虫を育て、成長を観察し、小さな命の尊さを学んでいます。

●園外活動では、散歩を通して行き交う地域の方などと挨拶を交わしています。近隣の、犬の居るデイサービスを訪問し、交流をしています。園は、商店街に沿って立地しており、子どもたちは地域の商業活動を知り、触れ合い、地域の取り組みで花を育てる活動にているのを見えています。

●子どもが自由に自分の気持ちを表現できる機会として、保育室に自由画帳、ホワイトボード（保育士に言ってから使用）、絵具、紙や素材を用意し、最初は保育士が指導し、後、子どもたちは自由に遊んでいます。また、モンテッソーリの遊具も自由に使い、文字組立て遊びや、文字盤をなぞって文字が書けるようになる等、遊びを通して興味・学びの一環になっています。子どもが楽器に興味を示した場合は、保育士が出して遊んでいます。

●子ども同士のケンカの場合は、保育士は見守りながら、お互いの話を聞き、子ども同士で解決ができるように援助しています。1歳児では、引っ掻き等に十分注意し、保育士が代弁しています。異年齢同士のかかわりでは、年に数回、「ハッピーランチ」を開催し、異年齢（2歳～5歳児）で食事を行い、関係作りを深めています。5歳児が3歳児の話を聞いてあげている光景も目にしました。

●散歩や屋外活動を積極的に行っていく方針ですが、気候や季節の感染症等で散歩を調整せざるを得ない状況もあります。健康増進の工夫では、園庭ではできない運動や、戸外活動が経験できるよう、天気の良い日はなるべく積極的に出かけ、三ツ沢下町公園などに出かけ、鬼ごっこで走り回り、ちょっとした山登りをして筋肉・筋力強化に努めています。屋上園庭では、鉄棒を行ったり、室内では定期的にリズム運動で体を動かし、運動会が近くなると室内鉄棒・マットをして運動能力を高める機会を設けています。戸外遊びでの紫外線対策では、襟足付き帽子を着用し、必要に応じて長袖の着用や、虫よけ対策への配慮をしています。子どもの健康状態は、健康台帳にて既往症を持

II-1 保育内容 [生活]



つ子どもに配慮し、子どもの体調に合わせて配慮しています。

●食事については、3歳児以下は給食室で盛り付けを行い、4、5歳児は、副食は子どもが自分で食べられる量を盛り付け、完食に配慮し、おかわりもできるようにしています。年長児は当番活動を行い、お茶を注いだり、配膳のお手伝いをして食事の関心・興味につなげています。調査日に食事を一緒に行い、おかわりはあまり見られませんでした。子どもたちは静かに食し、食事時間を大切に過ごし、子どもたちは個々に「いただきます」を言ってから食事を行っています。保育士は、子どもたちの食事を見守りつつ、食事をこぼした際は、子どもに優しく促し、床をすぐに拭き、清潔に留意しています。乳児の授乳や離乳食は、家庭と連携し、生活リズムに沿って授乳を行い、離乳食は子どものペースを尊重して対応しています。

●食育の一環として、2歳児からクッキング活動を月1~2回くらい取り入れ、5歳児は、保育室で炊飯器を用いてお米を炊く機会を設け、炊き上がるご飯の匂いも、食の「過程」を知り、食欲を誘い、食への興味と関心につなげています。2歳児は皮むきなど食材の下処理を手伝い、3歳児は和え物や、調味料を調合するなどの調理体験を行っています。子どもたちは、これまで苦手だった食材も食べる努力につながっています。

●毎月の献立は、給食委託先で献立を作成し、月1回、特別メニューも提供し、季節の旬の食材を使った献立を提供しています。園では、お弁当ランチ（家から空の弁当箱を持参して）や異年齢でのランチを企画し、楽しい食事を提供しています。盛り付け、彩、形状は園の調理担当者が工夫して調理しています。食器は安全性に配慮し、強化硬質磁器を採用し、0歳~1歳児ではワンプレートのお皿を使用し、お椀は下に切欠きのあるものを使用しています。食具は、子どもの発達、年齢に応じて使用し、子ども用のトングも用意しています。

●子どもの喫食状況に関して、毎月、栄養士を交えて給食会議で話し合い、月2回の同じメニューの内、1回目の食べ具合から調理方法等を工夫して対応しています。子ども個々の好き嫌いについては保育士が把握し、栄養士も給食時に巡回するよう努め、調理担当者は子どもの一人一人の食事量や喫食状況、反応を把握し、盛り付けでは型抜きで子どもが好むよう盛り付け・彩を考え、調理方法の改善に努め、食に興味・食が進むよう配慮しています。

●献立表は、保護者に前月に配布し、給食便りは毎月発行して

献立作成のポイントを掲載する等、情報提供を行っています。
給食内容は実物サンプルを展示し、レビシは要望があれば配布する等、保護者へ食育の興味・関心につなげています。また、懇談会の機会におやつレシピを渡し、冬の保育参観時に親子クッキングを行い、保育士体験も実施しています。

●午睡時は、保育室の睡眠環境に配慮し、布団は呼吸できる布団を採用し、全園児に使用しています。眠れない子どもには、わらべ歌を保育士が歌ってあげたり、また、無理強いをせず、体を休めることを重視して布団に横になるよう促しています。SIDS 予防では、呼吸チェック表を作成し、0 歳児は 5 分ごと、1 歳児は 10 分ごとに記録しています。

●排泄については、個々の排泄のリズムを把握し、保護者と連携を図り、一人一人の発達状態に応じて個別にトイレトレーニングを進めています。2 歳児以下は仕草から汲み取り、トイレの必要性を見極めていきます。開始時は、園での排尿間隔を伝え、連絡ノートで時間がわかるようにし、家庭での協力を仰いでいます。排泄に失敗した際は、子どもの羞恥心に配慮し、温水シャワーを利用する等、子どもが気持ち良く過ごせるようにしています。

II-2 健康管理・衛生管理・ 安全管理 [健康管理]



●健康管理では、健康管理マニュアルに基づき、内科健診（年 2 回）、歯科健診、尿検査、蟯虫検査、視聴覚検査を実施しています。毎朝、保育士は、目視、連絡ノートの確認、全体の検温を行い、子ども一人一人の健康に留意しています。園では、子どもが保育中に 37.5 度の熱が出た場合は一報入れるようにしています。歯磨きについては、食事の後に歯磨きを実施し、保育士が仕上げ磨きをしています。年長児は赤染めを行い、磨き残しを確認しています。また、歯科医による歯磨き指導を受け、適切な健康管理に努めています。

●健康診断、歯科健診、各検査等の結果はそれぞれの台帳に記録・保存し、その日の内に保護者にも伝え、乳児は連絡ノートにも記載して連携を密にしています。嘱託医やかかりつけ医とは連携し、情報を伝え、助言を受けています。既往症、予防接種の状況は健康台帳に記載し、職員に周知を図り、緊急時に備えています。

●感染症について、登園停止基準や保育中に感染症の疑いが生じた場合の対応は、横浜市基準に則った「感染症に関するマニュアル」に明記されています。登園停止基準等について、保護者には入園のしおりに明文化し、説明しています。保育中に発

	<p>症した場合は、速やかに保護者に連絡し、相談の上、個別対応しています。感染症が発生した場合は、事務室入口、保育室入口に掲示して保護者へ知らせ、感染症の蔓延に注意しています。保護者に対して、横浜市こども青少年局保育運営課発行の保健だより「すくすく」で健康や病気に関する情報提供で啓蒙しています。</p>
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<p>●園独自に衛生管理に関するマニュアル（法人作成内容に園の事項を追加したマニュアル）を整え、年度末にマニュアルの見直しをしています。マニュアルに沿って衛生管理に関しての園内研修を実施し、チェックリストにより清掃を行い、遊具の消毒はアルコールを使用し、木製品は水拭きを行い、衛生管理に努めています。汚物処理の際は、嘔吐処理セットを各クラスに設置しています。</p>
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<p>●安全管理では、建物は耐震構造であり、家具類は備え付けの収納家具を採用し、仕切用の棚も丈の低いものを使用し、安全対策を講じています。安全管理に関するマニュアルがあり、全職員に周知し、毎日、園舎内の安全点検を実施しています。月1回、避難訓練を実施し、職員は、救急救命法研修（AED含む）に順次参加し、救急救命法を身に付けています。緊急連絡体制は、職員用連絡網を備え、保護者への連絡（一斉メール）体制も整備しています。</p> <p>●事故やケガについては、救急機関、地域防災拠点の学校との連絡体制を備え、事故防止、事故対策については、入園のおしおりで保護者に説明しています。保育中のケガは、小さなケガであっても必ず保護者に状況を報告し、ケガをした翌日の登園時には、家庭での様子を伺い、異変はなかったかどうか確認しています。職員は、事故報告、ヒヤリハットを記入し、ハザードマップを作成して検討および改善策を立て、再発防止に努めています。また、法人系列園での事故報告書を基に、自園での再発防止を話し合い、改善に努め、共有を図っています。</p> <p>●外部からの侵入に対して、定期的（年2回）に不審者を想定した防犯訓練を実施しています。園の玄関は電子ロックになっており、警備会社に委託契約をして緊急時対応を講じています。また、散歩時には保育士は携帯電話を常備しています。不審者情報は神奈川県役所から入手しています。また、警察、学校、法人系列園等の情報ネットワークを備えています。</p>
<p>II-3 人権の尊重</p>	<p>●保育士は、子どもに対する配慮点や、言葉のかけ方、名前の</p>



呼び方、援助の仕方について共通認識を図り、より良い保育に努めています。名前の呼び方はなるべく家庭での呼び方に合わせるようにしています。月1回、子どもの人権について園内研修を実施し、保育士は、子どもの気持や発言を肯定的に受け止め、穏やかに分かりやすい言葉で子どもに話し、人格を傷つけないよう配慮しています。園では職員間で保育の質の向上が図れるよう研鑽しています。更なる向上に期待されます。

●子どもが友だちや職員の視線を気にせず過ごせる場所を確保し、必要に応じて1対1で話せる場所や、子どもが落ち着ける場所を用意しています。

●個人情報の取り扱いや守秘義務については、マニュアル・チェック表に沿って確認し、全職員への認識を図っています。実習生にもオリエンテーションで説明し、誓約書を提出してもらっています。個人情報の取り扱いについては、保護者に説明し、フェイスブック、ブログの掲載の可否についての同意書ももらっています。個人情報が記載されている文書、記録は、施錠できる場所に保管、管理しています。

●性差に関する配慮では、子どもの人権と大きく捉え、遊びや行事での役割、持ち物や服装での区別や、グループ分けや整列も性別で分けをすることはしていません。子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的に捉えた話し方や表現はしていません。職員は、無意識な固定観念的な発言は互いに注意し合う体制を整えています。

II-4 保護者との交流・連携



●保育の基本方針について、保護者に対してクラス懇談会で説明し、「園のしおり」、「パンフレット」に保育方針を記載し、園目標は保護者の目に触れるところに掲示して内容の理解を促していますが、利用者アンケートでは理解の浸透性が希薄であり、より工夫が望まれます。しかし、年2回、法人本部による「保育所に関するアンケート」を実施し、行事後のアンケートや、日常保育を通して、園だより、連絡帳を活用して保育方針が理解されるよう努力しています。

●保護者との情報交換では、園生活の様子や活動内容は、ホワイトボードを活用して伝え、連絡帳（3歳～5歳児）でその日の子どもの様子を記載して情報を伝えています。乳児は連絡ノートを活用しています。担任の伝達事項は、申し送りノートに記入して保護者に伝え、担任以外でもその日のその子の様子を一言でも伝えるよう心がけています。保護者に対して、経験値により対応の差異がないよう、統一ある共通認識を図るよう期

待されます。

●個人面談は、保護者の意向で随時、個別に受けています。クラス懇談会を実施（年2回）し、クラスの状態を伝え、意見交換や交流を図っています。保護者の相談については、休憩室、事務室を活用し、プライバシーを確保するよう配慮しています。相談を受けた職員は園長、主任に報告し、適切に対応できるよう園長・主任が同席しています。相談内容は申し送りファイルに記録し、必要に応じて継続的にフォローしています。

●園生活に関する情報は毎月、園だより、保育士の手書きによる「クラスだより」を定期的に発行しています。園内での情報提供は、クラス便りや、クラスのホワイトボード、連絡ノート、出席カードで伝えています。また、日々の保育の様子の写真を保育室に掲示したり、ホームページのブログで園の活動内容を見ることができ、写真は自主的な購入も可能としています。フェイスブックでも日常の子どもの様子を伝えています。クラス懇談会では、保育内容・目的について、資料を交え、園での様子をわかりやすく伝えています。欠席者には、懇談会の内容を書面にし、資料や口頭で伝えています。

●年間の行事計画を年度初めに保護者に配布し、予定が取りやすいよう配慮し、園だよりでも月の予定を掲載して知らせしています。保護者の保育参加について、保育参観は土日を除く参観週間を定め、決まった期間に参加できない保護者へは何時でも受け入れることを伝え、積極的に受け入れています。また、希望制で、保育士体験を募り、保育の理解につなげています。誕生会には、誕生児の保護者に声を掛け、参観できるようにしています。保護者のメールは災害時の連絡、イベントの変更のお知らせなどで活用し、速やかな情報提供に努めています。

●園では、保護者会は設定していません。卒園アルバムも園で用意を行い、保護者の卒園に向けての集まり、保護者の自主的な活動は特にありませんが、新体制になり、今後さらに、保護者との理解・コミュニケーションに努めていきます。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>III-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<p>●地域の子育て支援サービスのニーズを把握する取り組みでは、神奈川区の子育て支援連絡会主催の「わいわいパーク」で講習・研修会の手伝いを行い、神奈川区のイベント等に参加し、関係機関や他施設との検討会・研究会に出席して地域の子育て情報を把握しています。育児相談では園見学者から相談に応じ、神奈川区の子育て支援事業「あかちゃんの駅」にも協力しています。</p> <p>●地域の子育て支援ニーズは、神奈川区の子育て支援連絡会などから情報を収集し、情報は職員会議で話し合っています。地域での子育てを支援するため、交流保育を地域に呼びかけ、育児相談は神奈川区役所の広報に掲載し、「赤ちゃんの駅」の実施では、おむつ交換の場所の提供を行い、地域の子育てに協力しています。園の子育て支援事業では、障害児保育、交流保育を実施しています。</p>
<p>III-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<p>●地域住民に対する園の情報提供については、育児相談があることを園見学者に周知し、入園に関する情報も提供しています。園の行事(夏祭り)の案内を作成して地域に配布し、ポスターを商店街に掲示させてもらっています。育児支援のお知らせや保育園情報は、神奈川区子育て情報サイト、広報よこはま神奈川区版に詳細に掲載され、分かりやすく情報が提供されています。育児相談は随時行っていますが、相談日の設定はしていませんので、今後、設定をして対応する体制を構築し、講座等も地域の親子に提供するよう期待されます。</p> <p>●相談内容による関係機関との連携では、地域の団体のリストを作成し、関係機関(神奈川区役所福祉課、区の保健師、東部地域療育センター、中央児童相談所、警察、消防署、嘱託医等)とは密に連携を図り、担当は園長または主任としています。</p>

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<p>●地域への園の理解促進のための取り組みとして、行事（夏祭り）に地域の方々を招き、園の取り組みや子どもの様子を見てもらう機会を設け、地域の行事にも園児と共に参加して交流を図っています。また、幼保小連絡会の連携、町内会、小学校と交流を図り、小学校の体育館を借用し、年長児は小学校の1年生との交流会（年2回、夏と秋）に参加し、就学に向けて良い機会となっています。地域での買い物や散歩の道中では地域の方に積極的に挨拶を行い、園にAEDを設置して商店街にも利用してもらうよう伝え、交流に努めています。</p> <p>●子どもと地域との交流では、お散歩やお買物の時に近所の方などに挨拶し、地域の公園を利用し、公園を利用している地域の親子と交流したり、高齢者施設への訪問や、地域の消防署へ見学に行く等、地域の文化等を活用して様々な人と交流しています。また、地域の夏祭りや、神奈川区主催の「わいわいパーク」などにも園児と参加しています。</p>
<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<p>●園のサービス内容・保育方針などの情報提供は、神奈川区・園のホームページ、神奈川区の広報誌に掲載し、園のパフレットを園見学者に渡しています。また、横浜市の「ヨコハマはびねすぽっと」でも情報を提供し、区役所、関係機関にパンフレットを置いています。入園のしおりには、保育内容の情報と共に、保育料についても記載しています。園見学・問い合わせに関しては、電話では常時対応できる体制を整え、利用希望者に見学ができることを案内し、見学は見学者の都合に合わせて対応しています。園見学者には本部担当職員も対応できるようにし、パンフレットに沿って説明しています。</p>
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<p>●ボランティアの受け入れでは、ボランティアのマニュアルを用意し、職員や利用者に基本的考え方・方針が理解されるよう説明しています。受け入れでは、担当者は園長とし、事前にオリエンテーションを行い、保育方針、心得、留意事項を説明し、理解を促しています。終了後は、反省会を設け、感想や意見を園運営に反映させています。</p> <p>●実習生の受け入れでは、マニュアルにより事前オリエンテーションを行い、受け入れおよび育成担当者は園長とし、保育方針、心得、留意事項の理解を促しています。受け入れにあたっては、職員に説明を行い、子ども・保護者に知らせています。</p>

	<p>実習では、オリエンテーションで話し合い、実習が効果的に行われるようにプログラムを工夫しています。最終日には反省会を行い、実習生の感想や気づきを提出してもらい、園運営の参考にしています。</p>
--	---

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●人材の確保については、法人本部で必要な人材の補充を逐次実施しています。人材育成については、人材育成計画を策定し、系列全園で実施しています。年2回、面談シートに沿って園長との面談を行い、年1回は法人保育事業本部との面談を実施しています。正規職員は人材育成制度があり、各職位（ユース、管理者、専門職等）の年間目標を設定し、計画を立案して年度末には達成状況や反省を確認し、次の課題につながるようにし、資質向上を図っています。 ●修体制については、大研修（年2回）、小研修（隔月）、外部研修（不定期）を設け、経験年数や役割に応じて、正規職員、非常勤職員が選択して受講できるようにしています。時間外の研修設定もあり、非常勤職員が参加できない場合は、研修報告書を閲覧して共有化を図るようにしています。園内研修は、外部研修に参加した職員が研修報告書に沿って職員会議で伝達研修を実施しています。研修受講後は研修報告書を作成し、本部に1部提出し、全職員で情報を共有できるようにしています。研修報告書は、全職員で情報共有を図り、職員会議で議題を抽出し、学習する機会を設け、職員は研鑽を図り、質の向上に努めています。研修内容は評価を行い、受けるべき研修を常に見直しています。 ●非常勤職員の配置や業務内容については、必ず、正規職員と非常勤職員の組み合わせとし、非常勤職員の会議を設け、併せて教育も行い、必要な知識と情報を提供し、業務の変更点も確認しています。また、研修報告書を確認して正規職員と共有化を図り、資質向上を目指しています。非常勤職員の指導は、園長が行い、非常勤職員から要望や意見を聞き、コミュニケーションを図り、園の円滑な業務につなげるよう努めています。
<p>V-2 職員の技術の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人事考課制度に沿って、保育士個々の目標を決め、「保育士の自己評価」を行っています。年間指導計画に沿って、保育日



誌、実践記録からも自己評価を行い、自己評価チェックを活用して1年間を振り返り、翌月・翌年の保育につなげています。職員は、保育の柱であるモンテッソーリ教育について社内外の専門家から手法を学び、質の向上に取り組んでいますが、職員個々が統一あるモンテッソーリの保育にあたるよう、指導をさらに期待します。また、本部のスーパーバイザー職員、英語の専任講師、神奈川県区役所の有識者などから保育の技術の評価・指導等を受ける機会を得、今後に期待されます。

●保育や業務の計画および記録を通して、年間の保育の振り返り、自己評価チェックリストを用いて職員自らの実践を評価し、改善に努める仕組みがあり、次期の年間・月間指導計画につなげています。また、子どもの一人一人の育ちや意欲、取り組み過程を重視して保育の自己評価を行っています。

●「保育所の自己評価」について職員会議で話し合い、保育士の自己評価の結果を元に、保育所の年間指導計画に関わることの明確化を図り、改善に取り組んでいます。保育所の自己評価では、園の理念や保育方針、保育課程に沿って実施し、今年度は、第三者評価を受審し、職員全員が自己評価票に自己の振り返りと共に取り組み、職員会議等で協議を図り、園全体の現状を把握し、改善課題を抽出して取り組み、結果は公表します。

V-3 職員のモチベーション維持



●「自己評価チェックリスト」に期待水準を明文化していますが、階層別期待水準については来年度完成に向けて検討しています。保育士には、業務分担表にリーダーの設定と、可能な限り権限を委譲し、責任を明確化しています。法人本部で年1回、職員アンケートを実施し、各職員の近況を把握し、意見を吸い上げています。園長は、年2回、全職員と面談を行い、個々の半期目標の達成度（自己評価）と併せて職員の満足度についても確認しています。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●職員の守るべき規範は、「運営マニュアル」に明文化され、職員に周知しています。経営、運営状況は、法人のホームページで公開されており、事業計画・事業報告については要求に応じて開示しています。法人の園長会、区の園長会議などで収集したコンプライアンス事例を題材に研修を行い、職員は職員会議やミーティングで守るべき規範について再確認し、改善の指針にしています。 ●環境整備では、モンテッソーリの環境配慮の考え方を明文化し、リサイクルや分別では、ゴミ分別は子どもたちと共に実施し、一部のゴミは産業廃棄業者を利用しています。省エネ対策としては、節電や、裏紙再利用、冷暖房の設定温度に注意を促し、廃材は保育で活用し、実践しています。緑化推進については、プランター植物の栽培を楽しみながら緑化を進めています。アイン松本町保育園は、よこはま ECO 保育所の指定を受けています。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●理念・基本方針、保育目標は明文化し、事務室に掲示し、職員に対して、配布を行い、園長は、各職員が理念を理解していなければ保護者に説明できないと考え、朝礼、会議等でわかりやすく説明し、周知を図り、今後の育成に期待しています。また、園長は、職員の面接時（年2回）に、理念・基本方針の理解度を確認し、意識統一に努めています。 ●重要な意思決定について、園長は、職員、保護者に情報提供と共に説明を行い、経過を順次掲示し、理解を促しています。仕組みでは、異なる部門の複数職員で検討チーム（法人企画課等）を編成し、組織全体で決定する体制作りを構築しています。 ●主任クラスの育成は、法人本部の人材育成計画に主任育成プログラム、キャリアパス制度が設けられています。職員は、横浜市の主任・リーダー研修等の研修に参加しています。また、主任会議や研修会では主任の役割やカウンセリング手法を学べる機会があります。主任は、各職員の業務状況の把握を行い、各職員の能力や経験に応じた的確な助言・指導を行うよう努めています。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●園運営に関する最新の情報や事業運営に影響ある情報については、神奈川区保育園園長会、幼保小連絡会、市役所、厚労省のホームページ、本部の園長会議などの会議に出席し、情報を収集・分析しています。幼保小連絡会には実務者の会議もあり、5歳児と小学校1年生の担当者が出席しています。重要な情報は、

会議等で話し合い、職員間で共有しています。運営面での重要な改善課題は、法人本部から指示を受け、職員には職員会議を通して周知し、園全体で取り組み、業務改善提案も受け入れています。

●中・長期計画については、法人本部で3年間の事業の方向性が決定され、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを常に検討しています。次世代の育成では、計画的に後継者を育成しています。外部からの助言・指導等については、法人顧問弁護士、税理士、英語講師、外部講師、モンテッソーリの指導者、第三者委員などの意見を取り入れて運営に生かすように努めています。

27年度 福祉サービス第三者評価 本人（園児）調査結果報告書

アイン松本町保育園

(株)R-CORPORATION

*調査日程	観察調査	2016年2月2日・2月3日
	本人調査	2016年2月3日
*保育観察	調査員3名で全クラスの視察、観察を行いました。生活の保育観察を行い、散歩に同行し、午睡の様子と保育観察を継続する中、食事(1日目)を園児と一緒にいき、保育士、園児の様子観察を行いました。	
*利用者本人調査の方法	異年齢活動中により、4歳児、5歳児の出席児全員14名に20分程度、部屋を設定して、質問6項目の面接を実施し、一人一人の意見を聞き、インタビュー内容を通して、子どもの姿、園生活等を確認しました。また、大きく項目を分け、遊び中心とした保育園での生活、食育を通した子どもの成長と家庭との連携、社会生活の面について考察しました。	
*属性	4歳児・5歳児（合計：男児8名・女児6名）に対して、全員合同でインタビューを行いました。	

利用者（園児）本人調査結果

1. 【保育園での生活】

園では、自社の遊具（プルチノ）を含むモンテッソーリ・メソッドの遊具を活用して学びにつなげています。子どもたちのインタビューでは、遊びについて質問しました。子どもたちに、「園ではどのような遊びをしていますか？」と聞くと、それぞれに「トランプ」、「ブロック」、「絵本」、「機織りで遊ぶ」、「自転車」など、人気の遊びが挙がりました。モンテッソーリの教義の中に、「機織り機」があり、子どもたちは興味をもって遊んでいます。訪問調査時は散歩に同行し、近隣の商店街を歩き、行き交う地域の方に挨拶をし、商店街の道端に花が植栽されているのを見たり、保育士が見つけたものに子どもが反応し、色んな発見を保育士・子どもが共有しながら五感を育み、散歩を楽しんでいます。

2. 【食育に関する保育】

食育の取り組みでは、委託先の栄養士も保育士と共に協力して食育に取り組み、月1回は特別メニューを提供し、子どもの好きな献立や、季

節の旬の食材を取り入れ、子どもたちが食事を楽しめるように工夫しています。例えば、「お弁当ランチ」（家庭から弁当箱を持参）や、異年齢でのランチを行い、通常と違った雰囲気のある食事に、子どもたちは楽しんでいました。インタビューでは、「好きな食べ物は何か？」と質問すると、「レーズンパン」、「クリームパン」、「食パン」、「ピザ」、「塩ラーメン」、「醤油ラーメン」、「うどん」、「ごはん」、「三色丼」、「鮭のおにぎり」、「カレー」、「目玉焼き」、「ソーセージ」、「唐揚げ」、「ポテト」、「チョコレートケーキ」、「桃」、「メロン」などが次々と元気に回答があり、一人のキーワードに関連した食物が挙がり、「これも好き」等、好みの食事と同時に、種類もたくさん挙がりました。子どもが好むメニューが多く、好きなデザートも話してくれました。

3. 【社会生活について、】

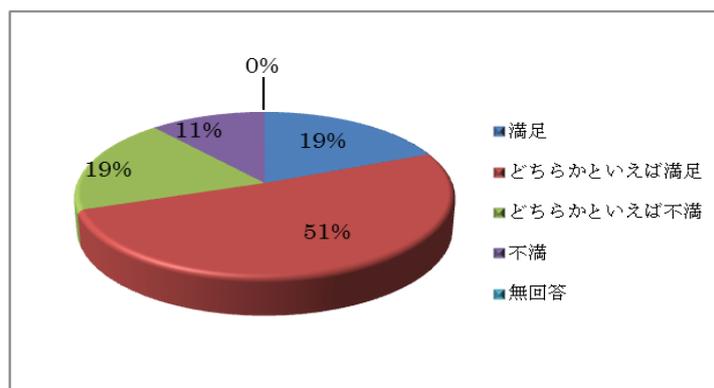
社会生活における、基本的習慣について子どもたちに聞いてみました。排泄では、「トイレについて、皆さんはどうしていますか？」と質問してみると、「トイレに行く前には先生（保育士）に言ってから行く」、「トイレの鍵が閉まっている時には先生（保育士）に言って開けてもらう」、「お散歩の前にはトイレに行く」と話してくれました。また、「お散歩でトイレしたくなっても園に帰って来るまで我慢する」という意見もありました。トイレ習慣は4歳、5歳児はきちんと身につけています。ケガについては、「硬いところに足をぶつけた」、「膝をぶつけて血が出た」など、ケガをした経験をもっているようですが、「その場合はどうしていますか？」の質問では、「ケガや熱がある時は先生（保育士）に言って絆創膏を貼ってもらった」、「冷たいお薬で治してもらった」等、ケガした時は保育士に言い、保育士が処置をしています。また、社会生活での保育士とのコミュニケーションについて、保育士について意見を聞いてみると、「先生（保育士）はやさしい」、「怖くない」、「悪いことをすると怒られる」、「可愛い」、「先生（保育士）が好き」など、それぞれの意見が挙がりましたが、皆は保育士と一緒に園生活を送る中、様々な場面において保育士を感じている様子がわかりました。また、「園の生活で嫌なことあった時は先生に言う」、「先生に言わない」は、半々くらいでしたが、友達に「止めて」と言っても止めてくれない時には保育士に言う等、自分で解決できるように努力している様子がわかりました。子どもたちは、「不審者が来た時、言うことは聞かないように」、「地震の時には机の下に潜る」など、社会生活でのルールを保育士に教わり、きちんと調査者に教えてくれました。子どもたちは保育士を信頼し、保育士・園生活を通じて社会を学び、他人に対するルール、人・ものに対する「思いやり」を教わっています。保育士は、子どもたちを受け止め、見守り、遊びから学びとなるよう日々育てていることが確認できました。

【アイン松本町保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	27年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	アイン松本町保育園利用者家族 (世帯数 72)
有効回答数	53 世帯
世帯総数に対する回答者割合 (%)	74%

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
7 世帯	7 世帯	9 世帯	12 世帯	8 世帯	10 世帯

* 回答があった利用者満足度の内訳 (%)



●利用者アンケートの特徴として、「日常の保育内容「生活」について」での項目が比較的、高い満足度を示しています。一番『満足』が高い項目は、「給食内容について」であり、満足は 66%挙がっています。次いで、「お子さんが給食を楽しんでいるかについて」、満足は 62%であり、どちらかといえば満足 34%、どちらかといえば不満 2%、その他 2%ありますが、満足・どちらかといえば満足を合わせると（以下、合わせて）、96%がほぼ満足としています。全体的に満足、安心感につながっている比較的高い項目では、「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」についてであり、満足は 47%、どちらかといえば満足 40%、どちらかといえば不満 6%、不満 6%ありますが、合わせて 87%がほぼ満足という結果になっています。

アンケートからの意見では、園の雰囲気良くなった、子どもとしっかり接してくれる、子どもを預けて働ける環境への感謝や、期待が込められた声も多く挙がっています。特に、0 歳児の保護者からは、保育に対する保育士の情熱の理解や、保育士の手作り玩具の共感、保育室で楽しく遊べる工夫に対する喜びと感謝の声をいただいています。

●「どちらかといえば不満」、「不満」についての回答では、園の体制が新たになった経緯、サービス提供等に関する要因を含め、アンケートの意見・要望からも安心・満足度の背景につながっている結果がうかがえます。特に、安心、満足が希薄な項目では、「お子さんに関する重要な情報の連絡体制について」であり、満足 11%、どちらかといえば満足 32%、どちらかといえば不満が 25%、不満は 25%、その他 8%、無回答 2%であり、概ね不満が上回っている結果となっています。また、「年間の保育や行事に保護者の要望が活かされているか」については、満足 13%、どちらかといえば満足 42%、どちらかといえば不満 23%、不満 15%、その他 6%、無回答 2%となっており、概ね不満では 48%という結果となっています。保護者の安心・満足につなげていくよう工夫・改善が望まれる項目については、

「送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明について」、「年間の保育や行事についての説明」、「子どもが戸外遊びを十分しているかについて」、「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気について」がアンケートの結果から挙げられます。これらは、保護者の期待所以の結果として捉え、アンケートの意見での「新しい風に期待される」という声に値するものです。

アンケートからの意見では、人事関連から派出する意見に集約され、体制と実施のバランス、職員間の連携、園の情報提供等に関する意見が最も多く、職員の育成に係る意見につながっています。しかし、保護者としてできること、園の力になっていきたいという気持ちや、今後に期待が寄せられている意見もあり、園と保護者が一緒になって子どもを育む環境作り、理念に基づいた園の体制作り、職員の質の向上に期待されます。また、保育目標と日々の保育とのつながりの理解・浸透の希薄さがアンケートから見受けられますので、周知・理解の促しと、さらなる改善を期待いたします。

●総合的に、『満足』は 19%の支持を頂き、『どちらかといえば満足』は 51%、『どちらかといえば不満』19%であり、『不満』11%であり、サービスの内容について、70%「ほぼ満足」していると、捉えることができます。

調査結果

アイン松本町保育園

■保育園の基本理念や基本方針について

あなたは、この園の保育目標・ 保育方針をご存知ですか	よく知って いる	まあ知って いる	どちらとも いえない	あまり知ら ない	まったく 知らない	無回答
	(人) 2	37	6	7	0	1
	(%) 4%	70%	11%	13%	0%	2%



あなたは、その保育目標や保育 方針は賛同できるものだと思いますか	賛同できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同でき ない	無回答
	(人) 16	20	3	1	1	12
	(%) 30%	38%	6%	2%	2%	23%

■保育園のサービス内容について

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	19	13	2	0	19	0
	36%	25%	4%	0%	36%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟在園のため見学なし。 ・以前はしっかり配慮してくださった。 ・新設での入園だったため見学していない。(6) ・見学していない。(7) ・新設のため、系列園を見学。 ・以前は詳しく説明してくれました。 ・開園からいるので…。 ・知らない。 ・系列園の見学があったが、行かなかった。 					
入園前の見学や説明など、園 からの情報提供については	13	25	8	3	4	0
	25%	47%	15%	6%	8%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加していない。 ・自身で問い合わせた。 ・見学していない。 ・詳しく説明してくれました。 ・新設のため特になし。 					
園の目標や方針についての 説明には	7	31	8	4	3	0
	13%	58%	15%	8%	6%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加していない。 ・あえて、説明はなかった。 ・詳しく説明してくれました。 ・よく知らない。 					

入園時の面接で、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	18	28	5	1	1	0
	34%	53%	9%	2%	2%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・未実施。 ・詳しく説明してくれました。 					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	8	35	3	4	3	0
	15%	66%	6%	8%	6%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・説明されていません。 ・未実施。 ・詳しく説明してくれました。 ・説明を受けた記憶がないため。 					
費用やきまりに関する説明については	16	25	7	2	3	0
	30%	47%	13%	4%	6%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の際のお休みに関して、園長に聞かないとわからない先生ばかりです。 ・未実施。 ・詳しく説明してくれました。 ・タイムカードが実際の時刻と3分程ずれていることがあり、時間内に登園しているのに延長保育料がかかったことがある。 					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明は	8	24	9	8	3	1
	15%	45%	17%	15%	6%	2%
	<ul style="list-style-type: none"> ・行事前に先生が入れ替わりすぎて、園児が混乱しかわいそうだった。 先生方も混乱していて、スムーズに保育や行事は進んでいない。 ・今年はクリスマス会もなく、ひどいです。 ・保育計画はあったが、他はあえてないのでは…。 ・必需品を、「お弁当持参」かどうか、年間行事の一覧表に記入してほしいです。 ・行事が少ない。 ・新設園だったので、決まっていないことが多かった。 					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	7	22	12	8	3	1
	13%	42%	23%	15%	6%	2%
	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の要望以前に、安心、安全な環境を提供してほしい。キャリアのある保育者が少なすぎる。子どもたちがパジャマに着替えずお昼寝していたり個性の自主性、主体性と謳っているが、バラバラにおやつを食べたり、遊んだりしている。日常生活を導いて教えていく場であってほしい。 ・よくわからない。 ・要望を出していないので不明。 ・生かされていない。 					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (おさんが満足しているかなど)	14	24	8	6	0	1
	26%	45%	15%	11%	0%	2%
	・友達同士で仲良くしているから楽しそう。生活については何をしているのか見えづらい。 ・個性を引き出したり、学びを意識した活動が少なく感じる。					
子どもが戸外遊びを十分 しているかについては	15	18	10	8	1	1
	28%	34%	19%	15%	2%	2%
	・保育士の目が行き届いているのか心配である。 ・散歩の靴は毎週キレイなままです。					
園のおもちゃや教材については (おさんが自由に使えるように 置いてある、年齢にふさわしいか など)	17	27	5	3	0	1
	32%	51%	9%	6%	0%	2%
	・最近新しいおもちゃが増えたようで、楽しいそうです。					
自然に触れたり地域に係わる などの、園外活動については	13	24	10	5	0	1
	25%	45%	19%	9%	0%	2%
	・歩けるのにもかかわらずバギーに乗ってばかりです。					
遊びを通じた友だちとの関わり や、保育士との関係については	11	28	9	4	0	1
	21%	53%	17%	8%	0%	2%
	・先生たちが慣れず、いっぱいいっぱいな様子を日々感じる。					
遊びを通じたお子さんの健康 づくりへの取り組みについては	8	27	13	3	0	2
	15%	51%	25%	6%	0%	4%
	・不明。					

「生活」について

	満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	35	17	0	1	0	0
	66%	32%	0%	2%	0%	0%

お子さんが給食を楽しんでいるかについては	33	18	1	0	1	0
	62%	34%	2%	0%	2%	0%
	・アレルギー対応のため、楽しんでいるかはわかりません。					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	18	22	9	4	0	0
	34%	42%	17%	8%	0%	0%
	・できていない。パジャマは毎週洗っていたが、園で着ていないことを子どもから聞いて知った。					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	20	21	6	4	2	0
	38%	40%	11%	8%	4%	0%
	・にぎやかな手のかかる男児に先生が振り回されている印象。 ・聞いたことはありません。					
おむつはずしは、家庭と協力しお子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	16	16	5	4	10	2
	30%	30%	9%	8%	19%	4%
	・まだその時期でないため。(2) ・0歳児なので。 ・まったく様子が伝わってこない。 ・まだわからない。 ・入園時はずれていた。(4) ・知らない。 ・質問が年齢相応ではないと思います。(5歳)					
お子さんの体調への気配りについては	20	24	7	2	0	0
	38%	45%	13%	4%	0%	0%
	・親がこういう点を見てあげてくださいと伝えないと、観察してもらえず、「大丈夫だったと思います」という返答だけのことが多い。					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	15	17	13	6	1	1
	28%	32%	25%	11%	2%	2%
	・ケガをしたことがないので。 ・親が子どもから聞いて気づくことや、嘔まれてから先生が謝ってきたり、一週間に何度か嘔まれた報告を受けた。多すぎる。目が足りているのか？ ・相手に関する情報を隠します。何を聞いてもごまかされます。 ・保育中のケガの大半は保育園の先生のせいではないと思うので(状況説明は必要であるが)、そこまで低姿勢でなくて良いと思う(謝罪など)。 ・十分すぎるくらいで、ありがたいです。 ・被害を受けた方には状況説明があるが、加害側の保護者には説明がないようです。改善を要望します。					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
施設設備については	14	25	10	0	3	1
	26%	47%	19%	0%	6%	2%
	<ul style="list-style-type: none"> ・ドア枠上部等にホコリが見受けられる。 ・2Fのゲートが外れやすい。 ・とにかく汚い。 ・AEDを設置していただいたから。 					
お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気については	12	23	11	7	0	0
	23%	43%	21%	13%	0%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・先生が手一杯の様子で、子どもたちも言うことを聞いていない。ギャーギャー言っていて落ち着きない。 ・先生方がいまいちキャリア不足を感じる。 					
外部からの不審者侵入に対する備えについては	12	25	10	4	2	0
	23%	47%	19%	8%	4%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラ等設置されていると良い(現状はやや満足です)。 ・迎えに行っても、申し送りなくそのまま帰ってしまう環境のことも多々ある。さらわれても気づかないのでは？と思うことがある。 ・特に聞いていない。 					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	13	22	11	5	2	0
	25%	42%	21%	9%	4%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムカード下の掲示板のみ。見落としやすい。 ・ノロが発生したと聞いたのでクラス名を聞きましたが教えてくれませんでした。前年度は公表されたのに、次の年はしない理由がわかりません。 ・もう少し掲示が大きい(目立つ)と良い。 ・手足口病後に「クラスで流行している」と言われた。誰がどーのこーのではなく、流行っているならば「注意喚起」が欲しかった。 ・マニュアルを知らない先生が多く、感染を防げていない。 					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	7	26	14	4	2	0
	13%	49%	26%	8%	4%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・日程調整の依頼をしましたが、何の話もないまま年を越しました。 ・経営元が参加しての懇談会がなかった。 					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	9	28	11	4	1	0
	17%	53%	21%	8%	2%	0%
	<ul style="list-style-type: none"> ・園のブログをもっとupしてほしい。 ・掲示が、より見やすいと良い。 					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	7	33	9	3	0	1
	13%	62%	17%	6%	0%	2%
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の終了時間が、毎年大幅に遅れる。 ・勤務交代が難しいため、もう少し早く知りたい。 					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	8	21	16	7	0	1
	15%	40%	30%	13%	0%	2%
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい先生ばかりで、誰にお世話になっているのかわからない。子どもの日中の様子がわからない先生が申し送りをするので、質問しても答えが返せないことが多い。 ・先生によって、と思う時がある。 ・誰に言ってもよいのかわかりづらい。 					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	6	17	13	12	4	1
	11%	32%	25%	23%	8%	2%
	<ul style="list-style-type: none"> ・主の先生が入れ替わりすぎて、新しい先生しかいない。結局、園長先生に言うことになる。 ・他の子の用紙が鞆に入っていたり、個人情報どころではないのでは？ ・特にない。 ・スタッフ間で共有されているのが不明、不安。 					
保護者からの相談事への対応には	13	22	11	3	3	1
	25%	42%	21%	6%	6%	2%
	<ul style="list-style-type: none"> ・園長先生に相談はする。 ・相談できる先生がいません。 ・したことがない。する雰囲気ではない。 ・役立たない。 ・相談してもスタッフ間で共有されているのかと思った。相談損。 					

開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	23	23	1	0	5	1
	43%	43%	2%	0%	9%	2%
<ul style="list-style-type: none"> ・土曜保育の申込が前月にまとめて一度になった。 ・このようなことが今までないので、どんな対応をしていただけるのかわかりません。 ・利用なし。(2) ・不明です。 ・前保育園と比べて、とても助かった。イヤミを言わなかった。 						

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	18	26	6	3	0	0
	34%	49%	11%	6%	0%	0%
・わからない。しかし、子どもは先生を慕っているので良いと思う。						
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	25	21	3	3	0	1
	47%	40%	6%	6%	0%	2%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	14	23	1	0	13	2
	26%	43%	2%	0%	25%	4%
<ul style="list-style-type: none"> ・うちでは特にないので、他のお子さんへの対応はわかりません。 ・アレルギーがなので、わからない。(2) ・よくわからない。(6) ・該当しない。 ・知らない。 						
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	16	25	8	2	1	1
	30%	47%	15%	4%	2%	2%
<ul style="list-style-type: none"> ・先生たちにやる気を感じない。 ・誰に話して良いのか迷う。スタッフも困惑した表情だったり対応が遅い。 						
意見や要望への対応については	12	27	6	6	1	1
	23%	51%	11%	11%	2%	2%
・物申しても、経営元と情報共有できているのか、対応策が伝わってこない。						

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	無回答
総合満足度は	10	27	10	6	0
	19%	51%	19%	11%	0%

調査対象園舎： アイン松本町保育園 横浜市神奈川区松本町 3-27-8

回答世帯数 72 世帯中 53 世帯 <0 歳児(7 世帯)、1 歳児(7 世帯)、2 歳児(9 世帯)、3 歳児(12 世帯)、4 歳児(8 世帯)、5 歳児(10 世帯)>

定 員 : 79 名

調査期間: 2015/05/15 ~ 2016/02/03

